

双珠別地区の方向性

1 地区の概要

(1) 人口等（平成26年3月末住民基本台帳・外国人を除く）

人口	世帯数	0～14歳人口	65歳以上人口	高齢化率
53	23	2	25	47.2%

(2) 主な施設等 双珠別地区住民センター、双民館

2 今後の動向と地区の課題

- 10年後は数世帯が減少している可能性があります。そのさらに先の15年後、20年後については大きく世帯数が減少するため、今後、地区内の活動や行事の実施が困難になっていくことや、農家については、現時点で後継者がいる又は後継者ができる可能性のある数世帯に減少することが予想されます。
- このため、以下の事項が今後の地区の課題としてあげられます。
 - ①コミュニティの維持・活性化
地域における心豊かで安全・安心な暮らしを維持するために、コミュニティの維持・活性化に向けた取組が必要です。
 - ②高齢者支援
交通や除雪といった日常生活面での課題の増加が予想されるため、地域交通の確保や介護サービス、除雪支援等のきめ細かな高齢者支援対策が必要です。
 - ③子育て支援
地域の子どもたちの存在は、集落の活力やコミュニティの維持につながるものであるため、若い世代が地域で安心して子どもを育てることができる環境の整備が必要です。
 - ④農業の振興
今後、農地や施設の継承といった課題が生ずることも予想されるため、後継者対策や農業被害防止対策等の農業振興策が必要です。

3 地区のめざす姿（概ね10年後の理想）

- 森林や山菜などの豊かな自然や生態系に囲まれ、のんびりと安心して暮らせる「双珠別地区」
- 住民一人一人が元気で仲のよい「双珠別地区」
- 持続的な農業が展開する「双珠別地区」

4 今後の取組の方向

地区の課題に対応し、地区のめざす姿を実現するため、次のとおり住民と行政が協働・連携し、取組を進めます。

(1) 住民が取り組むこと

＜行事等への参加と参加の声かけ＞

地域コミュニティを維持していくためには、地区の様々な行事等への住民の参加が重要です。人が集まらなければ、住民同士のつながりや共同意識の維持も困難であり、活動も活発になりません。

参加のきっかけや動機づけとして、ご近所や親しい方などからの声かけが有効であるため、行事等への参加について住民同士で声かけし、できるだけ多くの方が参加するよう努めます。

<地域の安全・安心づくりに向けた取組>

災害発生時の地域における被害の拡大防止や軽減を図るため、隣近所で協力や助け合いができる関係を維持するよう努めます。また、行政が実施する防災対策と連携・協力し、防災知識の習得や日頃の声かけ等を通じた近隣の高齢者等の状況把握など、平常時からの災害への備えに努めます。

<地区のあり方の検討>

コミュニティの維持や住民負担の軽減を図るため、親睦行事などで上双珠別と下双珠別の住民が集まる機会を積み重ね、共同意識を醸成し、行政とも連携しながら統合を含めた行政区のあり方について主体的に考えていきます。

<地区出身者（村内他地区、村外）に対する行事・活動への参加の声かけ>

高齢化の進展や人口減少に伴い、地域行事等の担い手確保が困難になることが予想されます。このため、村内他地区や村外で暮らす地区出身者に行事等のお手伝いを依頼する、あるいは帰省時期を利用して、人手を要する活動の応援を頼むなど、村内他地区や村外の出身者に声かけし、活動に賛同した出身者による応援団を確保するよう努めます。

<移住者へのサポート>

新たに移住してきた方が地域になじみ、地域の担い手になっていくためには、始めは周囲のサポートやアドバイス、気配りが必要です。地区への移住者があった場合は、地域の集まりや行事に積極的に誘い、新人が気軽に参加できる雰囲気づくりを心がけます。

(2) 行政が取り組むこと

<地域コミュニティの活性化>

○ 高齢者向け行事等の地区別開催

高齢者向け行事等については、自身が暮らす地区内での開催や、地区住民と一緒に参加したいという潜在的なニーズが住民にあるほか、行事等の各地区での開催は、地区内のコミュニティづくりの場となることも期待されます。

このため、高齢者の方の関心が高そうな行事等について、可能な限り地区別での開催に努めるほか、住民等が主体となった各地区での行事等の開催を支援します。

○ 民間団体や学校等と連携したコミュニティの活性化

住民や民間団体が主体となって実施する地域のコミュニティづくりの取組のうち、行政との連携等のニーズがあるものについて、これに協力あるいは連携しコミュニティの活性化を図ります。

また、学校等と連携し、高齢者を含む地域住民と児童・生徒との交流を促進することによって、コミュニティの活性化や子どもたちの地域意識の育成を図ります。

○ 伝統芸能の振興を通じたコミュニティづくり

伝統芸能は、人々の心や暮らしに豊かさ、ゆとりや誇りを持って生きる力などを与えてくれるだけでなく、子どもからお年寄りまで人の集まる場を形成し、集落のコミュニ

ティ形成にもつながるものです。

このため、占冠神楽や占冠青巖太鼓など村の貴重な伝統芸能の振興につながる取組に対する支援や、伝統芸能の活動団体と連携した取組などを通し、地域コミュニティの活性化や郷土愛の育成を図ります。

<防災対策の推進>

地域防災計画に基づき防災事業を推進し、風水害や雪害など災害の発生を未然に防ぎ、被害を最小に止めるとともに、交通・通信機能の強化、防災施設・設備・物資の整備、防災知識等の普及、防災訓練の実施、自主防災組織の育成等に努めるなど、十分な災害予防を行います。

<地域交通の維持>

今後の高齢化の進展に伴い地域交通の重要性が高まると考えられるため、地域交通の維持に努めます。

また、今後の利用状況や社会情勢の変化を踏まえた地域交通の見直しも必要になる可能性があるため、集落点検の結果から、今後、利用ニーズが高まると考えられる村営バスについては、必要に応じ時刻、バス停の場所などについて見直しを行っていきます。また、見直しを行う場合は、地域公共交通会議において住民の方からご意見を伺うなど住民ニーズに配慮します。

また、むらびと交通などその他の交通機関についても同様に、各種状況やニーズを踏まえ、必要に応じ内容の見直しを行っていきます。

<高齢者支援の推進>

今後、高齢化が進む中、住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるには、医療と福祉の確保が必要となるため、以下の事項に取り組んでいきます。

○ 医療従事者の確保

今後も村内で安定的に医療が提供できるよう、医師等の医療従事者の確保に努めます。

○ 介護サービスの充実

自宅で暮らしながら、より充実した介護サービスで、家族や親しい方々と共に生活していくことができるよう、小規模多機能型居宅介護施設の整備を推進するとともに、保健、医療と連携した効果的な施設運営に努めます。

○ 見守り・安否確認の実施体制の充実

訪問員による高齢世帯の見守り体制を維持するとともに、新たな緊急通報装置の導入等によって安否確認の充実を図ります。また、住民や団体・企業等と連携した見守り・安否確認の仕組みを構築します。

○ 除雪支援の継続

除雪作業については、高齢の方でも、健康を維持する上で、できる限り継続することも大切ですが、身体上の状態等によって除雪が困難であるという世帯が、今後、高齢化の進展に伴って増える可能性があります。

このため、現在の除雪支援制度の継続に努めるとともに、支援の対象者や必要な支援の内容等について、住民ニーズなどを踏まえながら必要に応じ見直しを行っていきます。

<子育て環境の整備の推進>

若い世代が地域に暮らし続けていくためには、安心して子育てができる環境が必要です。また、地域の活力やコミュニティを維持していく上でも子どもの存在は重要であることから、子育て環境を整えていくため、以下の事項に取り組んでいきます

○ 子育て支援の充実

子ども及び保護者の置かれている環境やニーズ等を踏まえ、保育所における保育サービスの充実化や地域子育て支援拠点の整備など、子育て支援サービスの充実に向けた取組を進めます。

○ 子育てに関する意識啓発の推進

生まれてくる子どもに対する地域の喜びを伝え、また、子どもたちもふるさとへの誇りや愛着を実感できるものを出産祝いとして贈るなど、占冠村で生まれ育った子どもたちの郷土愛を育むとともに、子育てに関する地域の関心・理解を深め、地域全体で子育て家庭を支えることができるよう、子育てに関する意識啓発の推進を図ります。

<農業の持続的発展に向けた取組の推進>

高齢化の進展に伴い農業従事者の減少が予想される中、新規就農者の確保は喫緊の課題であるため、以下の事項に取り組めます。また、既存農家の経営基盤強化に向けた各種支援施策を展開し農業振興を図るほか、農村景観の形成や自然環境との調和を保ちながら、農業が持つ多面的機能・自然循環機能の維持・増進を図ります。

○ 新規就農者対策の推進

農業を志す方が安心して就農できるよう、国の支援施策と合わせて村独自の支援制度を活用するほか、新規就農支援協議会等において関係団体等とも連携をとりながら新規就農を支援します。また、既存農家での実習に加え、多彩な知恵と経験を有する地域住民の協力を得ながら営農技術を伝承し、地域に根差した新規就農者の育成を図ります。

○ 第三者継承と農地集積の円滑化の促進

住居と農業用施設を一体とした第三者継承を促進し、農地の有効利用と初期投資の軽減を図ります。また、耕作放棄地が生じないように、新規就農者など意欲ある担い手への農地集積の円滑化等にも取り組めます。